

平成 22 年度 みんなで支える森林づくり大北地域会議（第 1 回）議事録

- 1、開催日時 平成 22 年 6 月 16 日（水） 13:30 ~ 15:30
- 2、開催場所 大北福祉会館 大会議室
- 3、出席者
 - ・委員
浅見昌敏、川上起源、香山由人、金原昭和、小林三郎、菅沢廣人、西條麻梨子、嶺村和徳、山内香代子
 - ・北安曇地方事務所
小須田地方事務所長、中村林務課長、ほか 6 名
 - ・報道関係
大系タイムズ
 - ・一般傍聴
なし

4、会議事項

（1）開会

神田課長補佐進行

（2）あいさつ

小須田地方事務所長

委員の皆さまには、お忙しい中「みんなで支える森林づくり大北地域会議」にお集まりいただきましてありがとうございます。

また、日頃から県行政、特に森林・林業の推進につきましては、それぞれの立場からご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、この森林税につきましては「長野県森林づくり県民税」導入から今年で 3 年目となり、折り返しの年でございます。

県民の皆様からの様々なご意見をいただきながら、この税の活用に努めているところでございます。

この大北管内におきましても、間伐団地の集約化、間伐の実施、木育活動等の様々な取り組みをしております。

おかげ様で、地域の森林整備に対する、気運が高まり、間伐面積の確保も着実にすすんでおります。

本日は、平成 22 年度の第 1 回目の会議でございます。

今年から、新たに 2 年間、この税活用について、ご検討いただく委員の皆さまにお集まりいただいております。

委員の選定にあたりましては、基本的には、昨年度までの委員の皆さまに引き続きお願いするとともに、一部の委員につきましては、公募委員とさせていただきました。

各委員の皆さまから、それぞれのお立場で、幅広いご意見を頂きたいと思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

会議内容は「平成 22 年度長野県森林づくり県民税の活用事業について」と「森林づくり指

針の改定について」をご検討いただくことになっておりますので、よろしく申し上げます。

簡単ではございますが、当地域会議に先立ちましてのご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

(3) 委員委嘱

小須田地方事務所長から各委員に委嘱状を交付

(4) 座長及び座長代理の互選

みんなで支える森林づくり大北地域会議設置要綱の説明(中村林務課長説明)後、座長及び座長代理を互選し「座長に浅見昌敏(あさみまさとし)」さん「座長代理に嶺村和徳(みねむらかずよし)」さんに、それぞれ就任していただいた。

(5) 議事

1) 「長野県森林づくり県民税」の概要について

ア 長野県森林づくり県民税活用事業の概要について

イ 森林づくり推進支援金について

ウ 木育推進事業について

2) 「森林づくり指針の改定」について

3) その他

「浅見座長」

議事に先立ち、それぞれの委員の皆さまから自己紹介をいただいてから進めたいと思います。

各委員自己紹介(自己紹介内容は省略)

「浅見座長」

自己紹介有難うございました。とにかく気楽に意見を出していただきたい。こんな意見を言ったら恥ずかしいとかそんな事を思わずに、思ったことはどんどん意見を言っていただくそんな会議にしたいと思います。

それでは、会議事項の1)「長野県森林づくり県民税」の概要につきまして、アの長野県森林づくり県民税活用事業の概要について、イの森林づくり推進支援金について、ウの木育推進事業について事務局の説明をお願いします。

「中村林務課長、稲村係長」

ア、長野県森林づくり県民税活用事業の概要について、資料1により説明

「稲村係長」

イ、森林づくり推進支援金について、資料2により説明

ウ、木育推進事業について、資料3により説明

「浅見座長」

ただいま事務局から説明がありました内容について、ご意見を申し上げます。

「香山委員」

森林づくり推進支援金事業の重点配分枠の中で、森林学習教材の購入として、平成21年度に購入されている教材は、林業を行っている人には大変参考になる冊子であるが、子供向けではないので、何か他の教材等を検討できないか。もっとイラストが入ったものなどに工夫して

いただけないか。

「事務局」

小中学生にも分かり易い森林学習教材とするよう市町村に指導します。

「山内委員」

本日、沢山の資料をいただいたが、出来れば前もって資料を送っていただきたい。

大町市の森林学習啓発事業は 31,000 円となっているが、この額では効果的な森林学習事業は出来ないと思うが、予算の割振りを変えられないのか。

「事務局」

各市町村からの要望に沿って、配分案としている。しかし、大町市には意見を伝えます。

「山内委員」

教育委員会など、実際の声が伝わるようにしてほしい。もう少し早い段階で事業の要望照会をいただき、広く要望をくみ取れる体制としてほしい。

「事務局」

緑の少年団の連絡協議会を通し教育関係者へアピールはしているが、更に広まるようにアピールしていきたい。

この支援金については、市町村の事業化が必要です。

「浅見座長」

この会議で配分枠を決めたいという事か。

「事務局」

配分枠の素案を決めたので、ご意見をいただきたいということです。

「浅見座長」

この会議での意見を大町市に提言してもいいということか。

「事務局」

この会議はまさしく森林税について提言する場なので、意見として提言して行きます。

「菅沢委員」

市町村の実情にあったものが出ていると思うので、私はこの案でいいと思います。

「事務局」

再度、市町村と調整したうえで、委員の皆さまにその結果を通知し決定したいと思います。

「香山委員」

森林税のハード事業の目玉は 90%補助の間伐だと思うが、整備が遅れている人工林の切捨て間伐にしか使えない。木を利用する搬出間伐に使えない。言い方は悪いかもしれないが、放置した山をただ掃除するだけの所にそんなにお金をかける必要があるのか。長年にわたり山を手入れしてきた熱心な林家の方からそんな話も聞いたことがある。スタートした 2 年間は、道路沿いなどの目に見える場所で実施されたのでいいが、今後は手遅れ人工林が多い、奥山になっていくので、奥山の切捨て間伐に森林税を多く活用していいものか疑問に思います。

「事務局」

森林税の見直しが 5 年後に行われます。それに向けて大北地域会議として、県に意見を上げたい。

「山内委員」

地域材を使われる仕組みについて、手厚い補助が必要である。環(わ)モデル事業に消費者が入っていない。消費者が何を望んでいるのか、また消費者が地域材を使う必要性を理解しないと循環には繋がらないと思うので、地域材の利用促進を検討するにあたり消費者を盛り込む必要があると思います。

「事務局」

消費者の目から見た木材利用という観点も非常に重要な意見だと思います。環モデル事業の4者協定に関らず、地域材の利用促進を図れるかは、行政も研究しながら進めていきたい。この意見も県へつなげたい。

「浅見座長」

それでは、次第の2)「森林づくり指針の改定」について、事務局より説明をお願いします。

「中村林務課長」

2) 森林づくり指針の改定について、資料4により説明

「浅見座長」

森林全体を対象とした幅が広くて難しい問題でもあります。香山委員がこの森林づくり指針の専門会議の委員にもなっておられますので、簡単に森林づくり指針専門会議の状況をお話いただけますか。

「香山委員」

森林づくり指針専門会議で2回ほど検討されました。森林づくり指針の検討は、森林全部の検討をすることとなり一人で全体を把握するのは無理なので、それぞれ得意分野に絞って考えて行けばいいという事で、「現在の森林の姿と自分の考えている森林との違い」があればそれに意見を言うということで検討を重ねた結果が、本日配布している資料に反映されています。しかし、この資料を全部読まなければ意見が言えないというものではありません。

過去2回の議論の中で、長野県の森林づくりを考える視点が必要となりました。国の森林づくり再生プランに影響されることなく、長野県独自の森林づくり指針にして行こうと議論されております。そのために小さな課題でもいいから、様々な機会を通じて、多くの人の意見をすい上げて指針に反映させることが目的なのでご意見ををお願いします。

「浅見座長」

森林・林業に対して普段思っていることを意見いただければいいということなのでお願いします。関係ないかもしれないが、こんな事を思っているという意見でもいいのでお願いします。

「山内委員」

・森林整備の団地化を進めるに当たり、不在地主が多いのがネックとなっている。市町村には施業勧告の制度もあるので、森林整備を希望されない方は申し出ていただき、それ以外はまとめて整備して行くような制度を作ればいいと思う。

・住宅に県産材を使う場合の補助金のハードルが高い、身近な県産材は低コストの住宅でも補助金が受けられるように進めてほしい。

・チップの段階での利活用を検討してほしい、チップボラーを公共事業に使用するなど出来ればいいなと思っています。

・環境教育の面で、先生が森林に興味がないと子供たちに何を教えていいのか分からないと思うので、信州大学の教育学部があるので、将来先生を目指す学生に、長野県の森林というものに興味をわくような仕組みを作りができればいいなと思います。

「金原委員」

屋敷林整備で家の回りの木を伐採したこともあるので、まず関心を持っていただくという面では、自分の足元である屋敷林から整備をしていき、段々山の方に向かっていくというものの切り口になると思う。

「西條委員」

若い人は、森林・林業に興味がない人が多いので、若い人も来たくなるような場があれば、いろんな意見も聞くことが出来るので、そんな交流の場があるといいと思います。

「金原委員」

100年先を考えれば、子供たちに何らかの山への関りを持たせるのが必要だと思う。学有林の整備を行ったり、巣箱を作ったりなど。

いずれにしても、子供たちが森林に触れることが重要だと思います。

「川上委員」

生活様式が変わり、山へのかかわりが変わってしまった。今は山へ行く人が減ってしまったので、何とか山へ行く人が増える体制を考えてほしい。

「浅見座長」

先ほど山内委員から県産材補助についての意見が出たましたが、県産材を50%以上使用しなければいけないとか住宅に条件が多い、補助金を受けるにも厳しい制限があるので、低コストの住宅でも、補助金が受けれる体制が必要と改めて思いました。

「山内委員」

ベランダは、カラマツの県産材を使うとかの一部の使用でも補助金を受けれる仕組みが必要だと思います。

「菅沢委員」

木材価格はどのくらいか。昔は“山から木材”今は“海から木材”となっているようであるが、木材価格はどうなっているのか。

「事務局」

昭和55年のピークから、木材価格は年々下落している。平成元年以降も下落が続き現在に至っている。

「香山委員」

丸太では、外材より国産材の方が安いですが、製材になると外材は安くなり国産材は高くなる。

「事務局」

本日いただいた意見を森林づくり指針へ反映させるために、県へ上げていきます。

「香山委員」

色々ご意見があると思います。県庁の担当者も一生懸命やっていますので、直接電話してい

ただいてもいいし、地方事務所へご意見いただいてもいいと思います。

「浅見座長」

その他について、事務局で何かありますか。

「事務局」

大北地域会議の年間スケジュールについて、年3回の予定を説明

「浅見座長」

委員の皆さまのご協力が無事会議を進めることが出来ました有難うございました。

「事務局」

それでは以上をもちまして「みんなで支える森林づくり大北地域会議」を閉会いたします。
本日はありがとうございました。

『みんなで支える森林づくり県民税大北地域会議の状況』

